

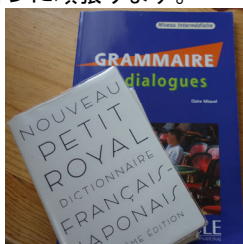


自己紹介

大淵由貴（おおぶちゆき）1988年東京都江戸川区出身。千葉大学法経学部総合政策学科卒。大学時代は環境NGOの活動に従事、また休学してバンクーバーでワーホリを経験。卒業後、電機メーカーで5年間営業を勤め、会社を退職して青年海外協力隊としてマダガスカルで活動中。

仏語語学試験

フランス語が公用語のマダガスカルでは、フランス語の語学試験 DELF を受験できます。任地には試験会場がないので泊りがけで首都で受験。面接と筆記試験がありますが、面接が月曜日、筆記が木曜日という何とも不便な日程。（後になって申し入れれば面接日程変更可能と知りました。）結果が出るまでにさらに2~3か月待ちます。受験費用は日本よりかなり安いので、それをモチベーションに頑張ります。



マダガスカル隊員の任地訪問

~ヴァキナカラチャ県と木彫りの町アンブシチャへ~

5泊6日で隊員の任地4か所を訪問し、活動見学と観光をしてきました。

アルミが有名なアンバトランピー



何学模様が彫られた椅子や机、日本の寄せ木細工のような、けれどももっとカラフルな木箱など魅力的な工芸品で溢れています。何件もお店をまわると、作品の上手下手も見えてきます。どれも一点物。ピンときたらそれは間違いなく買い時です！

まず始めに訪問したのはアンバトランピー。ここはアルミが有名で、写真のような装飾品から鍋、食器等の生活用品など、幅広いジャンルのアルミ製品が揃っています。農村訪問の際中にアンズズルベでは見かけない小麦の栽培も見かけました。ビール工場、競馬場もあるそうなのでまたゆっくり訪問したいと思います。

続いて、美しい木彫りで有名なアンブシチャへ。幾

彫木職人の町アンブシチャ



マダガスカル第三の都市アンチラベ



今回の旅の締めくくりは、隊員が派遣されている任地の中でも1、2を争う田舎町と言われている、アンタニフッチー。国道からは距離があるので、長距離バスを降りたら写真のバイクとトラックの荷台が合体したような乗り物で移動します。小さな町の良いところは人との距離が近いこと。今回の旅で一番たくさん挨拶をもらった町でした。

3か所目に訪れたのはアンチラベ。『時の止まった赤ん坊』という小説の舞台になった大きな街。豪華な大聖堂や美味しいレストランはガイドブックを参照して下さい(笑)ここでは洋裁の学校を拠点にしている隊員の活動を見学。学校とはいえミシンの台数が限られていたり、定規やハサミの貸し借りは当たり前。道具の待ち時間も手持ち無沙汰にならないように、先生たちは工夫しながら学生に指示を出します。私が普段の活動で使わない単語が飛び交い、わからないこともしばしば。マダガスカルに着いてから勉強を始めたマダガスカル語も、こうやって活動場所によって得意な分野が磨かれていくのだなと思いました。

国道からそれること2.5km アンタニフッチー

